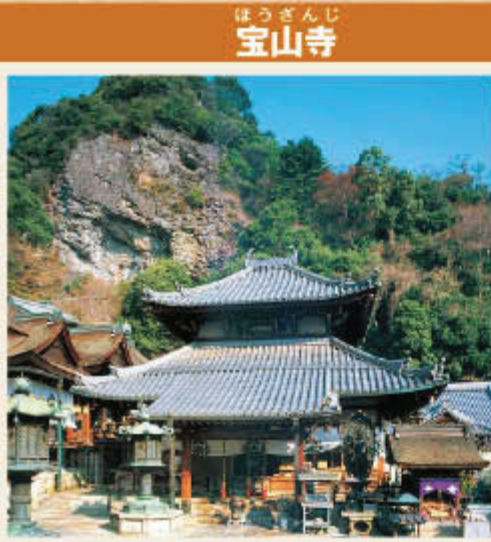


生駒山の夜叉と湛海さん



ほうざんじ
宝山寺

真言律宗大本山。「生駒の聖天さん」とも呼ばれる。本堂と、背後は般若窟。

奈良県と大阪府の境にある生駒山地。「万葉集」には「難波津をこぎ出てみれば 神さぶる 生駒高嶺に雲ぞたなびく」と歌われている。神が住むような神々しい山であったか。一方で、山には岩場も多く、修験道の祖、役行者もここで修行している。

その伝統は近世にも引き継がれた。生駒山の巨大な岩壁の般若窟には、役行者の作といわれる不動尊と弁財天の仏像が祀られていた。山麓の村人は「この古仏を守ってくれる方が

いたら山を寄進する」と、修験僧でもあった湛海さんにお願いした。実は、山には恐ろしい悪霊が棲んでいたらしい。

延宝六年（一六七八）、湛海さんは菜畑村の庄屋の案内で山に入った。岩をよじ登り般若窟に立つと、奇石が峨峨として聳え立つ断崖であった。湛海さんは石を取り除き、座禅する場所をこしらえた。ここに籠もつて三、四日過ぎた夕暮れ、突然、怪力の夜叉が組み付いてきた。

夜叉は黒く大きく、肌は岩のように硬くゴツゴツし、毛髪は鉄の針のように鋭く尖っていた。夜叉は「こは俺の住まいだ。早く立ち去れ」と言った。

湛海さんが「南無不動明王」と念じると、その腕力は夜叉の数十倍に変化し、夜叉は逃げ去った。

その後、湛海さんは、生駒山には岩船大明神が住み、山の北にその神が降臨した岩船谷があると聞いて参詣した。すると岩船の岩肌が、襲ってきた夜叉の肌と大変よく似ている。この時、大明神が夜叉となつて現れたことに気づいた。今も般若窟には岩船大明神を祀る小社がある。

湛海さんは伊勢（三重県）の生まれ。十六歳で出家し、真言律を学び、また、諸国を遍歴して苦行を重ねた。五十歳の頃、かつて役行者が開いた宝山寺を中興。八十八歳で示寂した。

ところで、宝山寺は、不動信仰とは別に「生駒の聖天さん」として知られる。聖天堂には湛海さんが勧請した大聖歓喜天像がある。夫婦和合、子授け、商売繁盛の尊像として広く信仰され、とくにお正月には初詣の人々で大変賑わう。

りっしほぞう
湛海律師坐像



木造で像高75cm。60歳前後の肖像と言われ、開山堂に祀られている。

物語の場所を訪れよう

「宝山寺」へは…

【電車の場合】
近鉄生駒駅下車ケーブル線宝山寺駅又は梅屋敷駅下車徒歩

【車の場合】
第二阪奈有料道路彦分ICから15分又は信貴生駒スカイラインを利用

拝観時間：
8時～17時
(冬期は～16時30分)



〒生駒市門前町1-1
☎0743・73・2006
www.hozanji.com